

自動走行車、ドローン実験

仙台 高齢者の足、防災に期待

東日本大震災の津波で被災し、居住が制限される「災害危険区域」に指定されている仙台市若林区の荒浜小学校周辺で27日、自動走行車と小型無人機「ドローン」の実証実験が行われた。

技術の活用で被災地発の技術革新を目指し、企画した。自動走行はベンチャー企業「ロボットタクシー」(東京都)と東北大などが実施。荒浜小の校庭で運転席が無人の車を走行させたほか、公道でも全地球測位システム



運転席が無人のまま走行する自動車

ム(GPS)を活用した1人乗り小型電気自動車を走り

せた。市などによると、高齢者の足としての活用や、災害時の避難手段になることが期待されるという。

ドローンの実験では、上空から撮影した写真の3次元映像化や、火山災害で入山が規制された際の状況把握のための土砂採取などが行われた。

実験に立ち会った奥山恵美子市長は「今後の防災に役立つ実験で心強い。震災

での経験が日本から世界に向けて発信できる技術になれば」と話した。